

## センター・公民館・主管課職員等セミナー

職員研修

有志指導者研修

要請研修

9月13日（火）に、センター・公民館・主管課職員等セミナーを開催しました。障がい者への理解を深め、障がい者が生涯学習事業に参加できるようにするためにはどのようなプログラムを展開していけばよいかについて学びました。

### 「障がい者の生涯学習推進における現状と課題」、「ポッチャ体験」 「障がいの多様性の理解と、関係機関と連携した生涯学習事業の新たな学習プログラムの企画・展開」



阿部貴弘社会教育主事

午前のはじめは、県教育委員会事務局生涯学習文化財課の阿部貴弘社会教育主事から、「障がい者の生涯学習推進における現状と課題」について、現在の国の施策と県の取り組みについての説明がありました。

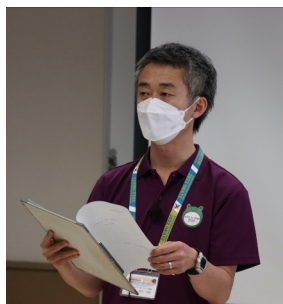
「ポッチャ体験」では、県文化スポーツ部スポーツ振興課主査スポーツ振興専門員の菊池大輔氏より、ルール説明を受け、実際に試合形式でポッチャの体験を行いました。「結果が最後まで分からない楽しさがあった」「本格的なルールを知らないの

で、勉強になった」などの感想が寄せられ、受講者一同楽しく体験できた様子でした。

午後は、「障がい者の多様性の理解と、関係機関と連携した生涯学習事業の新たな学習プログラムの企画・展開」と題し、紫波町教育委員会CSコーディネーターの佐々木勉氏による講義と演習が行われました。演習では、受講者が仮想都市「北湯口市」の職員となり、障がい者の生涯学習活性化プロジェクトの企画を1年間展開していくことを想定し、グループで協力しながら企画を作成していきま



佐々木勉氏



菊池大輔氏



ポッチャ体験の様子



グループで企画を立てている様子

#### 《受講者の声》

- ポッチャ体験、初めてだったがとても楽しく体験できた。
- 演習で、1年という長い期間での企画を考えることで、かわり方などについていろいろな意見を聞き考えることができ良い機会になった。
- 障がい者教育・支援というと、身体障がいや知的障がいに向けたものが多かったもので、講義で発達障害について取り上げていただけて良かった。

#### 《受講者の評価》

A（有意義）	93.8%
B（どちらかといえば有意義）	6.2%
C（どちらかといえば有意義でない）	0.0%
D（有意義でない）	0.0%

#### 《担当者（高橋）から》

講義で障がい者の理解と向き合い方について理解を深めた後に、事業の企画演習を行うことで、実践的な演習となったのではないのでしょうか。